

2019年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

■拠点全体の研究成果要約

◇立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）シンポジウム「超長期的視点から見た人口・環境・社会」の開催

2019年8月に考古学・古環境学・文化人類学の学際シンポジウムを開催し、遠い過去と現代との課題共有のための研究発表と討論を行った。年縞堆積物の研究が進み時間分解能が数百年から数十年幅に向上したことは、過去の自然と人間活動の双方を総合的に読み解くための時間の目盛りが得られたことを意味する。それはまた、過去と現代の自然と社会の問題を数十～数百年のタイムスパンで検討できることでもある。今後、約一万年埋以降の過去の環境と人間との関わり方の精緻な歴史と現代の社会問題を比較し、未来の持続可能性モデル構築を進める。なお、シンポジウムの成果を環太平洋文明研究第4号で特集として掲載した。

◇若手研究者による研究の国際的・学際的研究の推進：

第1グループの福本研究員は、トゥルク大学（フィンランド）と年縞分析にもとづく環境史研究を推進した。第2グループの富田助教は、日本・モンゴル・トルコの研究者らと近現代ユーラシアの牧畜社会の変容に関する研究成果報告書を刊行するとともに、国際アルタイ諸集団会議で20世紀のモンゴル牧畜社会の変容に関するパネルを組織し、研究発表を行った。第3グループでは、中村助教が2021年開催予定の第9回世界考古学会議で景観、アート&考古学の2つのセッションの共同オーガナイザーとして企画を進めた。第4グループでは、神松助教が国文学研究資料館との共同研究を主宰し、「文学と化学分析から見た、日本の食文化における断絶と継承」シンポジウムを開催した。

■各グループの研究成果

◇第1班（環境考古学/河角直美グループ）：年縞堆積物等の分析にもとづく過去一万年間の環境変化の解明

九州の池田池、関西の水月湖などの湖沼堆積物の分析では、過去の台風・洪水・津波の痕跡を発見する成果を上げており、約1万年前以降の完新世における長期的な気候変動と災害の実態解明が進んだ。これは、環境変動と人間社会（人口や生活様式）の相互作用を考察するための基礎データとして重要である。

◇第2班（文化人類学/小川さやかグループ）：人口変化と社会的要因に関する国際的な比較研究

周辺小規模社会から都市社会への人口移動の実態およびその諸要因について、東アジア（タンザニアから中国・香港への人口移動、近代日本の都市・農村の景観形成）、内陸アジア（モンゴル牧畜社会における都市・工業開発）の事例をもとに検討を進めた。また、社会のレジリエンスについて、北米（カナダ先住民の水質汚染被害）、南米（ペルーにおける環境開発・水質汚染）に関するデータの集積にも着手した。

◇第3班（縄文考古学/矢野健一グループ）：過去の人口動態の長期的分析：約一万年間の縄文時代の人口推定と社会の変化の分析

人口変動や小規模社会の実態を解明するために縄文時代の考古学的人口動態研究を進めた。西日本の人口動態研究については2019年11・12月に研究会を実施した。2020年3月には約7300年前に起きた九州南部の大規模噴火（アカホヤ火山灰）前後の人口動態に関する研究会を予定していたが、コロナ問題のために延期せざるを得なかった。また、北日本については、7000-2500年前に3回の大きな人口の増減が生じたことを明らかにし、火山噴火の影響や人口変動に対する社会的対応としての祭祀活動の変化について分析を行った。

◇第4班（災害地理学/高橋学グループ）：地形環境と災害、気候変化が人間社会とその土地利用におよぼす影響の分析

島嶼における環境変動と人間活動に関する研究では、島嶼の形成過程の違いが災害の種類や規模を大きく変える要因となりうることを明らかにしつつ、環境変動に対する人間社会への影響・応答の比較分析を進めた。また、「小氷期」前後における生産および人口と災害に関する研究では、中世末の寒冷化が海の退行と地下水位の低下を招き、居住地および生産地の移動や、暖かい綿の衣類の需要の増加に伴う綿花栽培の急増をもたらすと同時に、人々が食料生産の場となる土地を奪い合う戦乱が繰り広げられる戦国時代となったことを明らかにした。

■今後の展望

◇社会の持続性に関する研究成果とりまとめ：

これまでの研究成果を基礎に社会の持続性が維持された・維持されなかった事例を集成し、社会のレジリエンスという観点から分析する。それとともに、重要な事例群のモデル化をすすめ、社会の持続可能性モデルの構築を進める。

◇大型外部資金の獲得：

各グループの個別の研究課題については、2019年度より新たに科研費・基盤研究Cの「社会主義モンゴルにおける人間-環境関係の変容に関する研究」（代表・富田敬大）および「東北北部の縄文時代人口の推計および人口変動と祭祀や墓制の変化との関連性分析」（代表・中村大）が採択されるなど、順調である。今後、科研費を始めとする大型外部資金の獲得が課題となるが、2019年度に引き続き、科研費SとAを申請する。その際に、前回の反省点を踏まえ、上記で述べたシンポジウムで学外の科研費メンバーとの交渉を行ない、より強固な研究ネットワークを形成し、大型外部資金の採択を確実なものにすることを目指す。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目） ※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

- ①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割	氏名	所属	職位	
センター長	高橋学	文学部	教授	
運営委員	矢野健一	文学部	教授	
	小川さやか	先端総合学術研究科	教授	
	河角直美	文学部	准教授	
	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	言語教育センター	外国語嘱託講師	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中川毅	総合科学技術研究機構	教授	
	島田伸敬	情報理工学部	教授	
	川村貞夫	理工学部	教授	
	中村大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
	神松幸弘	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
	富田敬大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	福本侑	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		佐久間 香子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		古川 勇氣	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	梁説	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		Corey Noxon	文学研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	岩田京子	先端総合学術研究科	研究指導助手
市木尚利		文学部	授業担当講師	
客員協力研究員	尾関清子	東海学園女子短期大学	名誉教授	
	小野林太郎	国立民族学博物館	准教授	
	嘉幡茂	ラス・アメリカス・プエブラ大学	准教授	
	北川淳子	福井県年縞博物館	学芸員	
	宮多良ディスネル	関西外国語大学	非常勤講師	
	近藤宏	早稲田大学 教育学部	助教	
	清水昭	福島県立医科大学	特任教授	
	那須浩郎	岡山理科大学生物地球学部	准教授	
	東村純子	福井大学国際地域学部	講師	
	藤木利之	岡山理科大学理学部	准教授	

	福本繁樹	金沢美術工業大学	非常勤講師
	真邊彩	鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	文化財専門員
	杜海寧(アルベルトウス=トーマス・モリ)	関西大学政策創造学部	非常勤講師
	森下直紀	和光大学経営経済学部	講師
	山田和芳	ふじのくに地球環境史ミュージアム	教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	外山秀一	皇學館大學文学部	教授
	高山浩司	京都大学理学研究科	准教授
	森勇一	金城学院大学	講師
	石田智恵	早稲田大学法学学術院	専任講師
	上峯篤史	南山大学人文学部	准教授
	木村啓章	大阪府教育庁	技師
	幡中光輔	出雲市文化財課	主事
	中村豊	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	准教授
	遠部慎	久万高原町教育委員会	主事
	宮地聡一郎	福岡県教育委員会	主査
	柴畑光博	都城市教育委員会	主幹
	松森智彦	同志社大学人文科学研究所	嘱託研究員
	菅原大助	ふじのくに地球環境史ミュージアム	准教授
	小野映介	新潟大学教育人間科学部	准教授
	桐村喬	皇學館大学文学部	助教
	丸山敦	龍谷大学理工学部	准教授
研究所・センター構成員 計 49 名 (うち学内の若手研究者 計 5 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目)

※ページ数の制限は無し ※to be published, の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	那須浩郎	縄文時代の狩猟採集社会はなぜ自ら農耕社会へと移行しなかったのか	単著	2019年5月	クバプロ, 庄田慎矢編『アフロ・ユーラシアの考古植物学』		pp. 146-162
2	那須浩郎	ポリツェ文化の穀物利用と食生活	共著	2019年5月	雄山閣, 設楽博己編『農耕文化複合形成の考古学(上) 農耕のはじまり』	福田正宏, 國木田大, 遠藤英子, ゴルシュコフ, M., 北野博司	pp. 71-90
3	那須浩郎	日本列島における穀物栽培の起源を求めて—レプリカ法による土器圧痕調査結果報告—	共著	2019年5月	雄山閣, 設楽博己編『農耕文化複合形成の考古学(上) 農耕のはじまり』	設楽博己, 守屋亮, 佐々木由香, 百原新	pp. 191-346
4	外山秀一	ジオとグラフィーの旅 5 東アジアとヨーロッパの旅	単著	2019年7月	古今書院		p. 154
5	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—アングラ経済の人類学	単著	2019年7月	春秋社		p. 273

6	外山秀一	ジオとグラフィーの旅 6 地域情報の旅	単著	2019年10月	古今書院		p. 136
7	中村大	土器棺墓（土器埋設遺構）	単著	2019年12月	縄文時代文化研究会編, 『縄文時代葬制研究の 現段階』, 縄文時代文化研 究会		pp. 71-78
8	宮地聡一郎	九州地方における縄文 時代墓制の諸様相	単著	2019年12月	縄文時代文化研究会編, 『列島における縄文時代 墓制の諸様相』, 縄文時代 文化研究会		pp. 446-465
9	アルベルトウス ＝トーマス・モ リ	華人キリスト者の越境 と宗教実践：中華性と ミッションの人類学的 研究	単著	2020年2月	風響社		p. 288
10	石田智恵	同定の政治・転覆する 声—アルゼンチンの 「失踪者」と日系人	単著	2020年2月	春風社		p. 336
11	宮地聡一郎	九州縄文研究会 30 回記 念企画「九州縄文研究 会のこれから」によせ て	単著	2020年2月	九州縄文研究会, 『第 30 回九州縄文研究会鹿児島 大会 島々の考古学』		p. 518
12	宮地聡一郎	第 13 回日韓新石器時代 研究会の記録	単著	2020年2月	『九州縄文研究会, 『第 30 回九州縄文研究会鹿児島 大会 島々の考古学』		pp. 536-539
13	矢野健一	杉沢遺跡 2017 年度発掘 調査概報	共著	2020年3月	立命館大学文学部	鈴木大輔ほか	p. 26
14	遠部慎	円筒形条痕文土器の実 年代	単著	2020年3月	六一書房, 『中央大学考古 学論集 1 小林謙一還暦記 念』		pp. 49-66
15	遠部慎	水子貝塚 15 号住居出土 貝類の分析	共著	2020年3月	富士見市立水子貝塚資料 館, 『水子貝塚 ～まも り、伝える縄文のムラ ～』	畑山智史, 小林謙一	pp. 35-36
16	遠部慎	第 2 節 上ホシ遺跡の 成長線分析とその年代	共著	2020年3月	株式会社四門, 『上ホシ遺 跡』	畑山智史, 小林謙一	pp. 144-149
17	遠部慎	上黒岩第 2 岩陰遺跡整 理状況 土器付着物の 炭素 14 年代測定	共著	2020年3月	中央大学文学部日本史学 専攻考古学ゼミ, 『中央大 学文学部考古学研究室 2019 年度活動報告』	小林謙一, 米田穰	p. 7
18	遠部慎	石墨山の歴史と環境	単著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』		pp. 5-6
19	遠部慎	赤鬼法性院についての 民俗学的記述	単著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』		pp. 9-24
20	遠部慎	石墨山岩陰	単著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』		pp. 41-42
21	遠部慎	石墨山岩陰の木製面	単著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』		pp. 52-54
22	遠部慎	石墨山神社（遷葬所） 周辺の測量	単著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』		pp. 55-56
23	遠部慎	石墨山岩陰の木製品の 樹種同定と年代測定	共著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』	小林克也	pp. 77-78
24	遠部慎	石墨山登山に関する記 録	単著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』		pp. 87-88
25	遠部慎	まとめ	単著	2020年3月	久万高原町教育委員会, 『石墨山の研究』		pp. 101-102
26	遠部慎	子産石の民俗—四国地 方を中心に—	単著	2020年3月	中央大学出版部, 『考古学 と歴史学』		pp. 213-226

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Fukumoto, Y.	Varve distribution reveals spatiotemporal hypolimnetic hypoxia oscillations during the past 200 years in Lake Lemmilampi, Eastern Finland	共著	2019年5月	“Quaternary” Vol. 2(2) doi:10.3390/quat202002	Salminen, S., Saarni, S., Tammelin, M., Saarinen, T.,	pp. 1-20	有
2	矢野健一	葛籠尾崎湖底遺跡出土土器の調査成果概要	共著	2019年5月	日本考古学協会, 『日本考古学協会第85回総会研究発表要旨』	西山集, 小野大輔, 山中俊樹, 岡智康, 林亮太	pp. 202-203	無
3	中村大	人口増加に対する芸術的対応としての祭祀・墓制—縄文後期の環状列石を例として	単著	2019年5月	日本考古学協会, 『日本考古学協会第85回総会研究発表要旨』		pp. 200-201	無
4	高橋学	環境史からみた島嶼の災害リスクマネージメント	単著	2019年5月	海洋出版, 『月刊地球』482号 pp. 644-651		pp. 644-651	有
5	Nakagawa, T.	Geochemical characterisation of the Late Quaternary widespread Japanese tephrostratigraphic markers and correlations to the Lake Suigetsu sedimentary archive (SG06 core)”	共著	2019年6月	Quaternary Geochronology Vol. 52	Albert, P. G., Smith, V. C., Suzuki, T., McLean, D., Tomlinson, E. L., Miyabuchi, Y., Kitaba, I., Mark, D. F., Moriwaki, H., SG06 Project Members,	pp. 103-131	有
6	中村大	土器棺墓（土器埋設遺構）	単著	2019年7月	縄文時代文化研究会, 『縄文時代文化研究会30周年記念シンポジウム プレ発表要旨・資料集 縄文時代葬制研究の現段階』		pp. 63-70	無
7	小川さやか	SNSで紡がれる集会的なオートエスノグラフィー—香港のタンザニア人を事例として	単著	2019年9月	日本文化人類学会 『文化人類学』, 84巻2号		pp. 172-190	有
8	中村大	島嶼環境における先史狩猟採集民の定住戦略—北海道島及び本州島北部縄文文化から—	共著	2019年10月	『月刊地球』, 通巻482号	阿部千春	pp. 669-677	無
9	那須浩郎	野菜のはじまり “ドメスティケーション”	単著	2019年11月	誠文堂新光社, 『ピオストーリー—』, 第32巻		pp. 14-19	無
10	那須浩郎	変わりつつある野菜と人の関係	共著	2019年11月	誠文堂新光社, 『ピオストーリー—』, 第32巻	池谷和信	pp. 8-13	無
11	小川さやか	気づかないふりで回す信頼と友情	単著	2019年11月	講談社, 『群像』, 74巻11号		pp. 314-315	無
12	小川さやか	そして人類学が残る—グローバル、AI時代のなかで（特集 文化人類学再考—グローバル化と多文化社会のはざままで）	共著	2019年11月	神奈川大学, 『神奈川大学評論』, 94号	中沢新一, 松村圭一郎	pp. 6-33	無
13	富田敬大	20世紀モンゴルの社会経済変動が人間—環境関係に与えた影響に関する研究	単著	2019年11月	公益財団法人高梨学術奨励基金, 『高梨学術奨励基金年報』, 31号		pp. 343-350	無

14	小川さやか	世界が存在する偶然を（特集100年後の日本）	単著	2019年12月	サントリー文化財団、『アステーション』, 91巻		pp. 215-217	無
15	小川さやか	タンザニアの青少年たちの生き方から学ぶ「現在」をたくましく生きぬくためのヒント	単著	2019年12月	『TOSHIN TIMES』, 2020年増刊号		pp. 156-157	無
16	富田敬大	遊牧はどのようにして変えられたのか？—社会主義モンゴルにおける畜産業化の展開と資源利用への影響	単著	2019年12月	明治大学文学部, 『近現代ユーラシアにおける遊牧社会の変容にみる新生活原理の構築』		pp. 33-44	無
17	富田敬大訳	遊牧社会とモンゴル・ゲル	共著	2019年12月	明治大学文学部, 『近現代ユーラシアにおける遊牧社会の変容にみる新生活原理の構築』	Ts. アヨーン著	pp. 57-76	無
18	中村豊	四国東部産青色片岩製片刃石斧の展開	単著	2019年12月	徳島大学総合科学部, 『人間社会文化研究』, 第27号		pp. 1-22	無
19	Nakagawa T.	Refining the eruptive history of Ulleungdo and Changbaishan volcanoes (East Asia) over the last 86 kyrs using distal sedimentary records”	共著	2020年1月	Elsevier, Elsevier, “Journal of Volcanology and Geothermal Research”, Vol. 389	McLean D., Albert P. G., Suzuki T., Kimura J., Chang Q., MacLeod A., Blockley S., Staff R. A., Yamada K., Kitaba I., Haraguchi T., Kitagawa J., Smith V. C., SG14 Project Members	pp. 1-16	有
20	Yuki Furukawa	La producción de queso que no pone en deuda: Un caso de estudio sobre la distribución y reciprocidad en un pueblo de Cajamarca, Perú	単著	2020年1月	上智大学イベロアメリカ研究所, 『イベロアメリカ研究』, 41巻2号		pp. 57-72	有
21	中村大	『防長風土注進案』に記載された淡水性魚介類の組合せ類型と地域性	共著	2020年1月	山口大学教育学部, 『山口大学教育学部研究論叢』, 第69巻	五島淑子	pp. 161-170	無
22	松森智彦, 中村大	『防長風土注進案』記載の草木目録	共著	2020年1月	山口大学教育学部, 『山口大学教育学部研究論叢』, 第69巻	五島淑子	pp. 171-180	無
23	神松幸弘	古代の甘味「あまつら」の復元とその試食		2020年1月	国文学研究資料館, 『ふみ』, 第13号		pp. 4-5	無
24	福本侑	珪藻分析結果から考察する3.11東北津波がもたらした気仙沼湾の環境変動	共著	2020年3月	『兵庫教育大地理学・地理教育研究室研究報告』, 兵庫教育大地理学・地理教育研究室研究報告, 第25巻	塩見良三, 原口強	pp. 38-49	無
25	富田敬大	書評 尾崎孝宏著『現代モンゴルの牧畜戦略—体制変動と自然災害の比較民族誌』	単著	2020年3月	日本文化人類学会, 『文化人類学』, 84巻4号		pp. 537-540	有
26	矢野健一	縄文土器編年研究と人骨発掘	単著	2020年3月	立命館史学会, 『立命館史学』, 第40号		pp. 29-48	有
27	矢野健一	縄文遺跡から人口動態を探る—シンポジウム「超長期的視点から見た人口・環境・社会」の発表に関連して—	単著	2020年3月	雄山閣, 『環太平洋文明研究』, 第4号		pp. 5-11	有

28	遠部慎	洞窟遺跡の実態	単著	2020年3月	雄山閣、『環太平洋文明研究』, 第4号		pp. 12-20	有
29	桑畑光博	九州における鬼界アカホヤ噴火前後の縄文遺跡の動態	単著	2020年3月	雄山閣、『環太平洋文明研究』, 第4号		pp. 21-31	有
30	高橋学	古環境復原研究の回顧と展望—シンポジウム「過去の環境変化を解明する」の趣旨—	単著	2020年3月	雄山閣、『環太平洋文明研究』, 第4号		pp. 46-59	有
31	福本侑	熊本県天草諸島下島・池田池における過去7500年間の珪藻化石群集変動	共著	2020年3月	雄山閣、『環太平洋文明研究』, 第4号	箕田友和, 鹿島薫, 原口強, 山田和芳	pp. 60-75	有
32	神松幸弘	古代の甘味「甘葛」の原料に関する考察	単著	2020年3月	雄山閣、『環太平洋文明研究』, 第4号		pp. 89-109	有
33	中村大	北日本縄文時代の社会・人口統計の作成とその分析に関する覚書	単著	2020年3月	雄山閣、『環太平洋文明研究』, 第4号		pp. 110-121	無
34	富田敬大	ミルクと社会主義—乳利用からみたモンゴル牧畜社会の変容	単著	2020年3月	雄山閣、『環太平洋文明研究』, 第4号		pp. 122-133	無
35	遠部慎	松田凌馬「広島県におけるカワニナ食習俗—聞き取り調査と文献記録調査を中心に—	単著	2020年3月	日本動物考古学会, 『動物考古学』, 第37号		pp. 53-62	有
36	遠部慎	2018年度愛媛県久万高原町上黒岩第二岩陰遺跡の発掘調査	共著	2020年3月	中央大学史学会, 『中央史学』, 第43号	西本志保子, 大野朝日, 金子悠人, 小林謙一	pp. 212-217	有
37	富田敬大	社会主義期のモンゴル国北部における畜産業化の展開とその影響—乳・乳製品を中心に	単著	2020年3月	日本モンゴル学会, 『日本モンゴル学会紀要』, 50号		p. 100	無
38	アルベルトウス＝トーマス・モリ	華人研究のパラダイムを再考すること	共著	2020年3月	晃洋書房, 『知と実践のブリコラージュ—生存をめぐる研究の現場』	辺克典, 櫻井悟史編著	pp. 37-38	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Fukamoto, Y.	Detailed hydroclimatic varve record (2017-1909 CE) from Northern Finland	2019年4月	EGU General Assembly 2019, ウィーン・オーストリア	Haltia, E., Saarinen, T., Saarni, S.
2	Fukamoto, Y.	Arctic hydroclimate variability during past 500 years reconstructed from varved sediments of Lake Kevojärvi, Northern Finland	2019年4月	EGU General Assembly 2019, ウィーン・オーストリア	Saarni, S., Saarinen, T., Haltia, E.
3	中川毅	水月湖コアの長鎖脂肪酸水素安定同位体比にみられる十年規模変動	2019年5月	日本地球惑星連合大会2019年大会, 千葉県・幕張メッセ	稲垣征哉, 山本正伸
4	中川毅	湖底堆積物の花粉化石から高精度14C年代を抽出する	2019年5月	日本地球惑星連合大会2019年大会, 千葉県・幕張メッセ	大森貴之, 山田圭太郎, 北場育子
5	中川毅	水月湖に保存された花粉化石の酸素安定同位体比変動	2019年5月	日本地球惑星連合大会2019年大会, 千葉県・幕張メッセ	山田圭太郎, 大森貴之, 北場育子
6	中川毅	水月湖年縞堆積物に記録された最終氷期の地磁気エクスカージョン	2019年5月	日本地球惑星連合大会2019年大会, 千葉県・幕張メッセ	田辺祥汰, 三木雅子, 兵頭政幸, 北場育子, 山田圭太郎, 北川淳子 Suigetsu 2014 Project Members
7	福本侑	珪藻遺骸群集を指標とした巨大津波襲来時における気仙沼湾における急激な環境変動とその後の環境復旧過程の復元	2019年5月	日本地球惑星連合大会2019年大会, 千葉県・幕張メッセ	鹿島薫, 塩見良, 原口強
8	福本侑	珪藻分析を用いて復元された九州西岸池田池(大蛇池)の湖底堆積物中の過去4500年間のイベント性堆積物層	2019年5月	日本地球惑星連合大会2019年大会, 千葉県・幕張メッセ	鹿島薫, 箕田友和, 原口強, 山田和芳

9	富田敬大	社会主義期のモンゴル国北部における畜産業化の展開とその影響—乳・乳製品を中心に	2019年5月	日本モンゴル学会, 2019年度春季大会, 東京・大正大学	
10	矢野健一	葛籠尾崎湖底遺跡出土土器の調査成果概要	2019年5月	日本考古学協会, 第85回総会, 東京都世田谷区・駒澤大学	西山集, 小野大輔, 山中俊樹, 岡智康, 林亮太
11	中村大	人口増加に対する芸術対応としての祭祀・墓制—縄文期の環列石を例として	2019年5月	日本考古学協会, 第85回総会, 東京都世田谷区・駒澤大学	
12	Kitagawa, J.	Pine forest development and salt production in Wakasa town, central Japan	2019年6月	60 th Annual Meeting of the Society for Economic Botany, シンシナティ・アメリカ合衆国	Seto, K., Kojima, H., Shinozuka, Y., Irisawa, S., Yamada, K., Yoshida, T
13	Nasu H	Domestication of soybean, azuki, and barnyard millet in Japan	2019年6月	18th Conference of the International Workgroup for Palaeoethnobotany, サレント大学・イタリア	
14	矢野健一	葛籠尾崎湖底遺跡	2019年6月	立命館大学環太平洋文明研究センター—第26回定例研究会, 京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	
15	小川さやか	投擲的な相互支援を組織する—香港・中国南部の東アフリカ系住民による組合活動を事例に	2019年6月	日本文化人類学会, 第53回研究大会, 仙台市・東北大学	
16	古川勇氣	ペルー山村における農民の計算と配慮 チーズ技術供与の開発を事例として	2019年6月	日本文化人類学会, 第53回研究大会, 仙台市・東北大学	
17	古川勇氣	ペルー山村におけるチーズ生産者の利益追求と協調的振る舞い	2019年6月	現代牧畜社会における零細酪農経営の特徴とその社会・経済的背景, 京都・立命館大学衣笠キャンパス	
18	富田敬大	市場経済化後のモンゴルにおける人口動態と都市近郊の零細酪農家による乳生産	2019年6月	現代牧畜社会における零細酪農経営の特徴とその社会・経済的背景, 京都・立命館大学衣笠キャンパス	
19	森下直紀	公害対策による見えざるアニシナビ先住民への同化政策	2019年6月	環境社会学会, 第59回環境社会学会大会, 東京・明治学院大学	
20	Nakagawa T.	Lake Suigetsu update: final judgement on the synchrony / asynchrony of global warming events during the last deglaciation	2019年7月	20th Congress of the International Union for Quaternary Research, ダブリン・アイルランド	Staff R., Bronk Ramsey C., Bryant C., Scholaut G., Brauer A., Marshall M., Lamb H., Tarasov P., Haraguchi T., Gotanda K., Omori T., Yonenobu H., Yokoyama Y., Tada R.
21	Kitagawa, J	The climate condition and vegetation change by flood during the Late Yayoi period in Wakasa region, central Japan	2019年7月	20th Congress of the International Union for Quaternary Research, ダブリン・アイルランド	Seto, K., Kojima, H., Yamada, K., Yoshida, T.
22	Nakagawa, T	Stable isotope records of pollen fossils in Lake Suigetsu, Japan, during the Last Glacial-Interglacial Transition	2019年7月	20th Congress of the International Union for Quaternary Research, ダブリン・アイルランド	Yamada, K., Omori, T., Kitaba, I.
23	Nakagawa, T.	Stable hydroclimate is specific to a narrow temperature window: observations from Guatemalan varves, 1413±4 to 1515±0 CE	2019年7月	20th Congress of the International Union for Quaternary Research, ダブリン・アイルランド	Kitaba, I., Omori, T., Hoshino, Y., Haraguchi, T., Nasu, H., Lamb, H., Brauer, A., Plessen, B., Gotanda, K., Hayashida, A., Dettman, D., Hasegawa, H., Shinozuka, Y., Yamada, K., Fujiki, T., Ohyama, M., Pinzón, F., Inomata, T., Aoyama, K., Yonenobu, H.
24	Nakagawa, T.	Reanalysis of the atmospheric radiocarbon record from Lake Suigetsu for radiocarbon calibration]	2019年7月	20th Congress of the International Union for Quaternary Research, ダブリン・アイルランド	Bronk Ramsey, C., Heaton, T., Scholaut, G., Staff, R., Bryant, C., Brauer, A., Lamb, H., Marshall, M.

25	Nakagawa, T.	Paleoclimatic Records During The Early-Middle Pleistocene Transition From The Katata Formation West Of Lake Biwa, Southwest Japan	2019年7月	20th Congress of the International Union for Quaternary Research, ダブリン・アイルランド	Katoh, S., Hyodo, M., Kitaba, I., Yamada, K., Ishimura, D., Hirose, K., Danhara, T., Iwano, H., Sakata, S., Hirata, T.
26	那須浩郎	マヤ文明の盛衰と環境変動	2019年7月	第101回生地談話会, 岡山・岡山理科大学	
27	矢野健一	滋賀県米原市杉沢遺跡の土器	2019年7月	関西縄文文化研究会7月例会, 立命館大学衣笠キャンパス・京都市北区	小野大輔, 山中俊樹
28	中村大	土器棺墓(土器埋設遺構)	2019年7月	縄文時代文化研究会, 縄文時代文化研究会30周年記念シンポジウムプレ発表会, 佐倉市・国立歴史民俗博物館	
29	神松幸弘, 丸山敦	江戸時代の書籍に漉き込まれた毛髪のPIXE分析	2019年7月	第56回アイソトープ・放射線研究発表会, 東京都文京区・東京大学農学部弥生講堂	二ツ川章二, 世良耕一郎, 入口敦志
30	遠部慎	洞穴遺跡の実態	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
31	葉畑光博	九州における喜界アカホヤ噴火前後の縄文遺跡の動向	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
32	福本侑	湖底堆積物の研究から分かる災害の繰り返し	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
33	高橋学	過去の環境変化を解明する	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
34	瀧上舞	同位体分析で探るインカ帝国内の食の多様性	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
35	山田和芳	環境史学の視点にみるちょうどよい人口動態とは?	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
36	神松幸弘	あまつらの再検討-文献と化学分析からわかったこと	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
37	小野林太郎	環境変化からみた環太平洋圏におけるヒトの移住史	2019年8月	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム, 超長期的視点から見た人口・環境・社会, 京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
38	Takahiro Tomita	Changing Use of Dairy Products in Modern Mongolia	2019年8月	International Altay Communities Symposium VIII, the State Residence of the President of the Kyrgyz Republic Cholpon Ata, Kyrgyzstan	
39	Fukumoto, Y.	Paleoecological Late Holocene tale of varved Lake Kuninkaisenlampi, eastern Finland - Diatoms, natural eutrophy, and erosion intensity changes	2019年9月	20th Congress of the International Union for Quaternary Research, ダブリン・アイルランド	Tammelin, M., Saarni, S

40	佐久間香子	森の錬金術—ツバメの巣の生産から消費まで	2019年10月	2019年度 国際言語文化研究所 連続講座「食と政治—胃袋から支配する」, 京都市・立命館大学	
41	古川勇氣	第3回「食と言説」コメント	2019年10月	2019年度 国際言語文化研究所 連続講座「食と政治—胃袋から支配する」, 京都市・立命館大学	
42	市木尚利	チャンカイ文化～土器様式とアーバニズム～	2019年10月	立命館大学環太平洋文明研究センター研究会, 第28研究集会, 京都府京都市・立命館大学衣笠キャンパス	
43	遠部慎	上黒岩陰遺跡出土人骨の年代学的研究(予察)	2019年10月	第73回日本人類学会大会, 佐賀市・佐賀大学	小林謙一, 覚張隆史, 大森貴之, 尾畷大真, 米田穰
44	神松幸弘	日本古代の甘み「甘葛煎」の原料植物について	2019年10月	和食文化学会 第2回研究大会, 鶴岡市マリカ西館3F 市民ホール	
45	SHIMADA Nobutaka	Discovery of Image Pixels Highly Contributing to CNN regression	2019年11月	The 15th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2019), 滋賀県草津市・立命館大学びわこ・くさつキャンパス	LI Yitian
46	市木尚利	チャンカイ様式の高台付碗形土器	2019年11月	古代アメリカ学会, 第24回研究集会, 愛知県名古屋市・南山大学	
47	福本侑	モンゴル・アルタイ山地における湖沼環境と気候・風成塵(黄砂)の長期的変動	2019年12月	令和元年度乾燥地研究センター共同研究発表会, 鳥取大学乾燥地研究センター・鳥取	鹿島薫, Ganzorig, Ulgiichimeg, 黒崎泰典
48	Nakagawa T.	The occurrence and magnitude of floods recorded in Lake Suigetsu sediment and its relationship with flood activity records in East Asia region during the last 8000 years	2019年12月	アメリカ地球物理学連合, AGU Fall meeting 2019, サンフランシスコ	Suzuki Y., Tada R., Nagashima K., Haraguchi T., Gotanda K.
49	那須浩郎	植生史研究における種同定の現在と諸問題	2019年12月	第34回日本植生史学会大会公開シンポジウム, 豊橋市自然史博物館・豊橋	
50	富田敬大	社会主義体制下における牧畜の産業化と自然災害としての「ゾド」	2019年12月	シンポジウム「モンゴルの都市環境: 変容の諸相」, 仙台市・東北大学	
51	宮地聡一郎	九州地方における縄文時代墓制の諸様相	2019年12月	縄文時代文化研究会, 第2回研究集会 縄文時代墓制研究の現段階, 東京都世田谷区・日本大学文理学部	
52	中村大	土器棺墓(土器埋設遺構)	2019年12月	縄文時代文化研究会, 第2回研究集会 縄文時代墓制研究の現段階, 東京都世田谷区・日本大学文理学部	
53	川村貞夫	水中構造物検査ロボットによる位置姿勢保持のための負圧効果板設計の一考察	2019年12月	SICE 第20回システムインテグレーション部門講演会 (SI2019), 香川県高松市・サンポート高松	
54	福本侑	クック諸島ラロトンガ島カレレ湿原の海生堆積物の珪藻化石群集	2020年1月	国際火山噴火史情報研究集会 2019-2, 鹿児島大学郡元キャンパス・鹿児島市	藤木利之, 奥野充, 森脇広, 河合溪, 酒井恵祐
55	北川淳子, 山田和芳	福井県三方五湖地域の製塩とマツ林の発達の関係	2020年1月	汽水域合同研究発表会 2020, 島根大学・松江	吉田丈人
56	上峯篤史	縄文早期石器群を探る	2020年1月	中・四国旧石器縄文検討会, 東広島市・広島大学文学部	
57	神松幸弘	古代の調味料甘葛煎の復元	2020年2月	シンポジウム『文学と化学分析から見た、日本の食文化における断絶と継承』, 国文学研究資料館歴史的典籍NW事業, 国文学研究資料館オリエンテーションルーム	
58	上峯篤史	縄文前期石器群の様相と論点	2020年3月	東海縄文研究会第16回研究会, 三重県明和町・三重県埋蔵文化財センター嬉野分室	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第25回定例研究会	衣笠キャンパス	2019年4月	9	
2	第26回定例研究会	衣笠キャンパス	2019年5月	12	
3	現代牧畜社会における零細酪農経営の特徴とその社会・経済的背景	衣笠キャンパス	2019年6月	13	
4	第26回定例研究会	衣笠キャンパス	2019年6月	10	
5	第27回定例研究会	衣笠キャンパス	2019年7月	10	
6	立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム	衣笠キャンパス	2019年8月	120	国文学研究資料館
7	第28回定例研究会	衣笠キャンパス	2019年10月	9	
8	第29回定例研究会	衣笠キャンパス	2019年11月	12	
9	文学と化学分析から見た、日本の食文化における断絶と継承	国文学研究資料館	2020年2月	30	国文学研究資料館

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	高橋学	GW10連休が危険と専門家「令和」は巨大地震で始まるのか	日刊ゲンダイデジタル	2019年4月12日
2	高橋学	京都、奈良、神奈川、茨城、千葉など次の大地震警戒地域	夕刊フジ3面	2019年5月12日
3	高橋学	南海トラフ巨大地震を即否定気象庁の危ない“村度”	日刊ゲンダイ5面	2019年5月13日
4	高橋学	専門家が警鐘！次なる「大地震警戒地域」宮崎震度5弱、南海トラフ想定域内の発生に影響懸念	zakzak by 夕刊フジ インターネット版	2019年5月13日
5	高橋学	南海トラフ地震の予兆か！？日向灘、箱根、京都、相次ぐ揺れ…専門家「各地のプレートが限界」	zakzak by 夕刊フジ インターネット版	2019年5月22日
6	高橋学	千葉、茨城で相次ぐ地震六本木壊滅も	夕刊フジ3面	2019年5月23日
7	高橋学	富士山が噴火する、そして東京・横浜は……	週刊現代 pp.196-199	2019年6月8日
8	高橋学	江戸川区だけじゃない…「ここにはダメ！」な地域記録的豪雨で“水没リスク”	zakzak by 夕刊フジ インターネット版	2019年6月12日
9	高橋学	横浜に大地震国はここまで準備している	週刊現代デジタル	2019年6月18日
10	高橋学	大地震「空白地域」襲う恐怖新潟で震度6強	夕刊フジ3面	2019年6月20日
11	高橋学	千島列島の火山灰が日光遮断今年は冷夏襲来の3条件が揃う	日刊ゲンダイデジタル	2019年6月25日
12	高橋学	南海トラフ地震、関東“起点”の可能性も！？首都圏「震度4」は新たな異変の予兆か従来は西から…専門家「今回は性格違う」	zakzak by 夕刊フジ インターネット版	2019年6月25日
13	高橋学	「2050年文明崩壊説」ともっと怖い近未来	夕刊フジ 5面	2019年6月26日
14	高橋学	発生率は80%超…！？次の巨大地震が襲う「大都市」の名前	現代ビジネス	2019年6月26日
15	高橋学	九州豪雨「どこにでも潜む深層崩壊の脅威！東日本でも“山消失レベル”の雨…表層崩壊への警戒も必要	zakzak by 夕刊フジ インターネット版	2019年7月3日
16	高橋学	南海トラフと連鎖で富士山噴火、発生なら政治経済混乱	女性セブン p.44	2019年7月6日
17	高橋学	太陽活動“ダブル極小期”到来今夏は「極寒」と専門家指摘	日刊ゲンダイデジタル	2019年7月10日
18	神松幸弘	わからないことだらけ？ サンショウウオの食性から謎多き生態に迫る	Shi RU to (立命館大学広報課ポータルサイト)	2019年7月10日
19	高橋学	連鎖地震でいよいよ富士山が危ない！	女性セブン p.44	2019年7月18日

20	高橋学	新型豪雨に備えよ	フライデーpp. 40-43	2019年7月26日
21	高橋学	遠い地域が揺れる深発地震「異常震域」の恐さ… 南海トラフ地震「刺激する可能性がある」	zakzak by タ刊フジ インターネット版	2019年7月29日
22	高橋学	専門家が警鐘 関東と東北を襲う「異常震域」地震の恐怖	日刊ゲンダイデジタル	2019年7月30日
23	神松幸弘	幻の甘味料「あまづら」を復元 3日、衣笠キャンパスで試食会	京都新聞	2019年8月1日
24	高橋学	宮城・福島で震度5弱…「首都圏誘発地震」に警戒！ 相模トラフに影響、関東一円で起きやすい状況に	zakzak by タ刊フジ インターネット版	2019年8月5日
25	高橋学	噴火が近い！？ 北アルプス・焼岳で火山性地震が続発… 噴火した浅間山とは“兄弟分”	zakzak by タ刊フジ インターネット版	2019年8月10日
26	高橋学	お盆休みを直撃か 台風10号が火山噴火誘発と専門家が警鐘	日刊ゲンダイデジタル	2019年8月10日
27	高橋学	首都圏も油断禁物！「水没」危険な街リスト 八重洲、田園調布、国会議事堂駅周辺も…ゲリラ豪雨に注意	zakzak by タ刊フジ インターネット版	2019年8月30日
28	高橋学	九州大雨で…避難場所の病院「冠水」の必然を専門家が解説	日刊ゲンダイデジタル	2019年8月31日
29	高橋学	“最凶”台風東京直撃「死者8000人予測」の根拠と危険エリア	日刊ゲンダイ	2019年10月10日
30	高橋学	スーパー台風“直撃”で…首都圏水没、停電、交通マヒ危機！ 超高層ビル街は「乱気流」発生恐れも	タ刊フジ	2019年10月10日
31	高橋学	日本列島を繰り返す襲う巨大台風はこうして「狂暴化」する	iRONNA	2019年10月12日
32	高橋学	意外にも「キャッシュレス決済」小銭こそが“救世主”	日刊ゲンダイ	2019年10月12日
33	小川さやか	評価経済とは一線を画す—タンザニア人のTRUSTとは	日経ARIA	2019年10月15日
34	高橋学	台風19号の深すぎる爪痕 タワマンは“機能停止” 川崎市武蔵小杉の住民悲鳴 浸水した二子玉川、過去には「堤防反対運動」も	タ刊フジ	2019年10月15日
35	高橋学	ハツ場ダムのおかげで「利根川が助かった」は本当か 識者らに見解を聞く	J-cast news	2019年10月17日
36	高橋学	台風19号被災地、18日から大雨予報！ 地すべり厳重警戒 千葉や東京の山手地域、埼玉の大宮台地も	タ刊フジ	2019年10月17日
37	高橋学	橋下徹元大阪市長の発言が物議 身近に潜む“差別治水”の闇	日刊ゲンダイ	2019年10月17日
38	高橋学	千葉はまたも大水害「殺人台風」本州直撃は「あと3年続く」	スマートニュース	2019年10月30日
39	中川毅	台風被災地を苦しめる「泥害」への備え 機械・配電盤の設置位置…被害を想定した対策を	タ刊フジ	2019年11月2日
40	高橋学	首里城火災で気になる 他の世界遺産の防火対策は大丈夫？	日刊ゲンダイ	2019年11月2日
41	中川毅	農業は100年後にも可能だろうか？ 気候変動の可能性に植物研究で挑む	shiRUto	2019年11月6日
42	中村大	縄文時代から現代の人口問題を見つめ直す	RADIANT ISSUE12 環境	2019年11月13日
43	小川さやか	1000字でわかるインフォーマル経済—不確実な環境下での生き方	読売新聞 4面	2019年11月18日
44	小川さやか	タンザニア人の知恵「不安定性」には可能性が含まれている	日経ARIA	2019年11月18日
45	中村大	環状列石は「集いの場」縄文時代テーマに鹿角で講演	秋田魁新報 電子版	2019年11月18日
46	小川さやか	1000字でわかるインフォーマル経済—地域の便宜に基づく判断	読売新聞 4面	2019年11月25日
47	高橋学	“空白地帯”愛媛で震度4…瀬戸内海で不気味な兆候 専門家「最後に南海トラフ地震が起きるパターンが」	タ刊フジ	2019年11月27日

48	高橋学	「首都直下地震」「南海トラフ巨大地震」に警戒！ フィリピン海プレートに怪しい動き？ 専門家「“未知の断層” 動けば東京23区内で…	夕刊フジ	2019年12月4日
49	高橋学	関東で不気味な地震連発…南海トラフ、首都直下に続く“第3の脅威” 専門家「アウトラーズ地震」に警鐘	夕刊フジ	2019年12月9日
50	小川さやか	幸福な「その日暮らし」とは？ 未来の不安はみな同じ	日経ARIA	2019年12月10日
51	高橋学	宗谷地方北部で震度5弱 識者「東北北部も要警戒」	夕刊フジ	2019年12月12日
52	小川さやか	1000字でわかるインフォーマル経済—グローバル経済のゆがみと連動	読売新聞 3面	2019年12月16日
53	高橋学	必ず来る大地震…最新データで判明、名古屋と横浜の「Xデー」	現代ビジネス	2019年12月16日
54	高橋学	不気味な連日の緊急地震速報… 青森県東方沖で震度5弱、首都圏も引き続き警戒	夕刊フジ	2019年12月20日
55	高橋学	太平洋プレート大暴れ 近づく3つの巨大地震を専門家が懸念	日刊ゲンダイ	2019年12月29日
56	高橋学	「桜えびが記録的不漁、南海トラフは起きかかっているとの指摘」	女性セブン	2019年12月31日
57	高橋学	【2020年大予測】 巨大台風の五輪直撃や「スーパー南海地震」の可能性も	週刊朝日	2020年1月10日
58	高橋学	同時期発生は必然 プレートがつなぐ火山噴火と茨城の揺れ	日刊ゲンダイ	2020年1月16日
59	高橋学	1月なのに4月並みの暖かさ…暖冬が巨大地震の引き金に？	日刊ゲンダイ	2020年2月1日
60	高橋学	口永良部島で続く噴火は“スーパー南海地震”の不気味な予兆	日刊ゲンダイ	2020年2月4日
61	小川さやか	書評 アナ・チン著『マツタケ』 資本主義の終焉を生きぬく術	日経新聞 12面	2020年3月5日
62	中村大	いまの時代の人々にとって縄文とは何か	週刊読書人（書評専門紙） 6面	2020年3月6日
63	高橋学	「静穏期は終わった」 世界規模で見れば分かる日本の巨大地震リスク」	iRONNA	2020年3月11日
64	高橋学	東日本大震災から9年…日本列島「地震の巣」に危険な兆候！ 北海道、茨城でさらなる揺れ 京都、和歌山も「M8級」警戒	夕刊フジ	2020年3月11日
65	小川さやか	書評 吉岡乾著現地嫌いなフィールド言語学者、かく語りき	日経新聞 12面	2020年3月12日
66	高橋学	「首都封鎖」なら東京壊滅！？ 流通断絶&医療崩壊で…“コロナ戦争” 現実味 専門家「物流が止まればパニックになり、都市は死ぬ」	夕刊フジ	2020年3月26日
(講演会)				
1	Nakagawa, T.	Leads and lags of the deglacial climatic oscillations among key records from across the world	JAMSTEC・横浜	2019年4月2日
2	中川毅	七万枚の縞を数える 一福井県の泥が世界の標準時計になるまで—	福井県立大学入学式、福井県立大学・福井県	2019年4月5日
3	北川淳子	奇跡の湖 水月湖の「年縞」	北陸民放クラブ総会、福井テレビ・福井市	2019年4月12日
4	矢野健一	「縄文的精神」、京都市立芸術大学美術学部 総合基礎実技第1課題「ようこそ！～縄文的精神で接待の器（場）をつくる～」	京都市立芸術大学・京都市西京区	2019年4月16日
5	矢野健一	縄文と日本	毎日文化センター常設講座「縄文論争をひもとく」第1回、大阪市北区・毎日文化センター	2019年4月22日
6	山田和芳	ふじのくにで地球環境史を読み解く	地球環境『自然学』講座、大阪市・シニア自然大学校	2019年4月27日
7	中川毅	年縞から見てくる、気候変動の「リアル」な姿—湖底の泥に刻まれた詳細な歴史—	CIGS エネルギー環境セミナー、東京都・キャノングローバル戦略研究所	2019年5月16日
8	北川淳子	奇跡の湖 水月湖の「年縞」	敦賀ロータリークラブ卓話、小浜商工会議所・小浜市	2019年5月22日
9	矢野健一	多様な縄文土器	毎日文化センター常設講座「縄文論争をひもとく」第2回、大阪市北区・毎日文化センター	2019年5月27日

10	中村大	日本列島の先史時代における人口変動と火山噴火	立命館土曜講座, 京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	2019年6月8日
11	中川毅	人間と生態系の相互作用: 高解像度の地質記録から	シンポジウム「地球環境史と生命史」, 静岡市・静岡県男女共同参画センターあざれあ	2019年6月21日
12	中川毅	七万本の縞を数えるー日本の「泥」が世界の「標準時計」になるまでー	日本古生物学会 2019 年年会 普及講演会, 静岡市・ふじのくに地球環境史ミュージアム	2019年6月23日
13	矢野健一	縄文農耕	毎日文化センター常設講座「縄文論争をひもとく」第3回, 大阪市北区・毎日文化センター	2019年6月24日
14	北川淳子	奇跡の湖「水月湖」年縞堆積物の環境考古学への貢献 ~世界のものさしの意義~	福井県退職教職員会総会, 福井県退職教職員会・福井市	2019年6月25日
15	中川毅	農耕を可能にした気候変動: 現代社会の意外な脆弱性	立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) シンポジウム「気候変動にも耐えうる 21 世紀の農業技術とは?」, 滋賀県・立命館大学びわこ・くさつキャンパス	2019年6月28日
16	矢野健一	縄文文化の東と西	立命館大学1日キャンパス (青森県会場) アカデミック講演会, 青森国際ホテル・青森市,	2019年6月29日
17	北川淳子	年縞の中身を見てみよう	コミュラボ・コラボ, 福井県児童科学館・坂井市	2019年6月30日
18	森勇一	昆虫考古学を究める	日本第四紀学会 学会賞・学術賞記念講演会, 東京都・東京大学本郷キャンパス	2019年6月30日
19	北川淳子	水月湖の年縞堆積物の環境考古学への貢献	熊取町立熊取図書館科学講演会, 熊取町立熊取図書館・泉南郡	2019年7月7日
20	矢野健一	土偶の用途	毎日文化センター常設講座「縄文論争をひもとく」第4回, 大阪市北区・毎日文化センター	2019年7月22日
21	中川毅	暴れる気候と暴れない気候 ー人類は予測不可能な時代をいかに生きたかー	福山市医師会 (くちなし会) 講演会, 福山市医師会館・福山市	2019年8月9日
22	中川毅	気候変動と人類の歴史	企画展「時を測るー縄文・弥生時代の年代ー」文化財講演会, 福島県・福島県文化財センター	2019年8月12日
23	矢野健一	縄文の村	毎日文化センター常設講座「縄文論争をひもとく」第5回, 大阪市北区・毎日文化センター	2019年8月26日
24	矢野健一	縄文から弥生へ	毎日文化センター常設講座「縄文論争をひもとく」第6回, 大阪市北区・毎日文化センター	2019年9月23日
25	中村大	北東北の環状列石はなぜ造られ、そして廃棄されたのかー人口変動に対する芸術的対応としての伊勢堂岱と大湯ー	秋田にぎわい館 AU・秋田市	2019年9月23日
26	小川さやか	これからの時代をどう生きるかー宗教×労働×その日暮らし	サントリー文化財団設立 40 周年記念事業『学芸ライブ』	2019年10月3日
27	北川淳子	敦賀奇跡の湖「水月湖」年縞堆積物の環境考古学への貢献~過去5万年の年代のものさし~	福井県教頭・副校長秋季総会, ニューサンピア敦賀	2019年10月4日
28	北川淳子	年縞堆積物という歴史・環境変化の記録	滋賀県高校地学部会, 福井県年縞博物館・若狭町	2019年10月10日
29	中川毅	おだやかな「現代」はいつまで続くのか	令和元年度土木研究所講演会, 日本教育会館一ツ橋ホール・東京都	2019年10月16日
30	森勇一	アンモナイトの約束ー名古屋の自然3つのジオストーリー	名古屋市老年大学環境コース講演, 鯉城学園・名古屋市	2019年10月16日
31	上峯篤史	人類の移動ー黒曜岩製石器の分析・観察から	名古屋大学博物館・南山大学人類学博物館連携博物館講座, 名古屋市昭和区・南山大学人類学博物館	2019年10月19日
32	矢野健一	縄文土器	新しい縄文時代像 第1回, 京都市下京区・NHK文化センター	2019年10月25日
33	那須浩郎	植物利用の変遷	日本考古学協会岡山大会分科会 I, 岡山大学・岡山	2019年10月27日
34	森勇一	東谷山の湿地の謎解きにチャレンジャーテーマ「水をめぐる東部丘陵	あいち自然再生カレッジ, 愛知県環境局自然環境課・名古屋市	2019年10月27日
35	矢野健一	日本文化における縄文と弥生	縄文から弥生へ 第1回, 大阪市北区・毎日文化センター	2019年10月28日
36	中川毅	水月湖の年縞に刻まれた7万年の時間と「文明の時代」のはじまり	立命館大学 古気候学研究センター講演会, 文部科学省・東京都	2019年10月30日
37	中川毅	7万枚の縞を数える ー福井県の「泥」が世界の「ものさし」になるまでー	計量記念日特別講演, ホテルインターコンチネンタル東京ベイ・東京都	2019年11月1日
38	上峯篤史	日本人のオリジン: 遺跡の発掘調査から考える	南山大学土曜セミナー, 名古屋市昭和区・南山大学人類学博物館	2019年11月9日

39	森勇一	アンモナイトの約束ー「愛知の自然」3つのジオストーリー	東海シニア自然大学講義録、東海自然学園・名古屋	2019年11月12日、 2019年11月19日
40	森勇一	仙台城武家屋敷のムシたち	東北大学埋蔵文化財調査室発掘成果講演会、東北大学付属植物園・仙台市	2019年11月14日
41	高山浩司	南硫黄島学術調査ー幻のラン、シマクモキリソウの再発見	2019年度近畿植物学会、京都大学吉田キャンパス京都市	2019年11月16日
42	北川淳子	奇跡の湖「水月湖」の年縞堆積物ー過去5万年の年代のものさしー	日本鳥類保護連盟北陸ブロック+京都支部活動交流会、水月花・若狭町	2019年11月17日
43	中村大	最新の研究成果からみえてきた縄文時代の環境と生活	北海道・北東北の縄文遺跡群 世界文化遺産登録推進シンポジウム 秋田県鹿角市・文化の社交館コモッセ	2019年11月17日
44	小川さやか	無条件であることの条件を追求するータンザニア人の商売とその日暮らしを事例に	大阪大学社会ソリューションイニシアティブ『SSI サロン第2回 アフリカ 未来社会』、大阪大学会館・大阪府豊中市	2019年11月21日
45	中川毅	7万本の縞を数えるー水月湖の年縞から見た、気候変動の過去・現在・未来	計測自動制御学会北陸支部講演会、福井大学・福井	2019年11月22日
46	矢野健一	縄文人の食料	新しい縄文時代像 第2回、京都市下京区・NHK文化センター	2019年11月22日
47	矢野健一	縄文から弥生への考古学	縄文から弥生へ 第2回、大阪市北区・毎日文化センター	2019年11月25日
48	小川さやか	「その日暮らし」の経済から考える私たちの社会ー香港の地下経済と日本の未来	『開発教育セミナー』、関西セミナーハウス・京都府京都市	2019年12月14-15日
49	矢野健一	西の縄文土器、東の弥生土器	縄文から弥生へ 第3回、大阪市北区・毎日文化センター	2019年12月23日
50	矢野健一	考古学から探る縄文人の心	こうべ歴史大学、神戸市中央区・神戸三宮東急REIホテル	2019年12月26日
51	小川さやか	窮地におけるシェアの実践とセルフ観ータンザニア商人の事例から	立命館アジア太平洋大学社会連携セミナー、立命館アジア太平洋大学	2020年1月9日
52	矢野健一	縄文時代の環境と災害	新しい縄文時代像 第3回、京都市下京区・NHK文化センター	2020年1月10日
53	矢野健一	土偶はなぜなくなったのか?	縄文から弥生へ 第4回、大阪市北区・毎日文化センター	2020年1月27日
54	中川毅	暴れる気候と暴れない気候：平穏な暮らしがもたらしたもの	公開シンポジウム「気候変動と古代西アジアー古気候から探る文化・文明の興亡」、東京文化財研究所・東京都	2020年2月2日
55	中村大	縄文時代の集落について	令和元年度あつぎの遺跡展講演会、神奈川県厚木市・厚木市郷土資料館	2020年2月9日
56	北川淳子	奇跡の湖 水月湖の「年縞」	鯖江ロータリークラブ、鯖江商工会館・鯖江	2020年2月14日
57	矢野健一	土偶と石棒	新しい縄文時代像 第4回、京都市下京区・NHK文化センター	2020年2月21日
58	矢野健一	縄文文化の「弥生化」	縄文から弥生へ 第5回、大阪市北区・毎日文化センター	2020年2月24日
59	矢野健一	縄文から弥生時代へ	新しい縄文時代像 第5回、京都市下京区・NHK文化センター	2020年3月20日
60	中川毅	日本の泥はいかにして世界の標準時計になったかー水月湖年縞研究の四半世紀ー	オムニバス授業 地球環境史学、ふじのくに地球環境史ミュージアム・静岡市	2020年3月22日
61	矢野健一	日本の「基層」としての縄文と弥生	大阪市北区・毎日文化センター	2020年3月23日
62	中川毅	暴れる気候と暴れない気候ー人類は「想定外」の時代をいかに生きたかー	新琵琶湖学セミナー、琵琶湖博物館・草津市	2020年3月28日
(その他)				
1	森下直紀	報告「第3回環境被害に関する国際フォーラム：水俣病・失敗の教訓を活かす	季刊『水俣支援』、No. 89, pp. 22-24	2019年4月25日
2	高橋学	大阪府北部地震から1年。改めて考える①	おはようパーソナリティ道上洋三です、ABCラジオ出演	2019年6月18日
3	高橋学	大阪府北部地震から1年。改めて考える②	おはようパーソナリティ道上洋三です、ABCラジオ出演	2019年6月19日
4	高橋学	「2050年人類危機」豪シンクタンク・気候変動で食料・水不足…10億人移動も（夕刊フジの記事を紹介するコーナーでコメントが放送される）	大下容子ワイド！スクランブル、テレビ朝日	2019年6月25日
5	中川毅	世界に認められた「水月湖年縞」	いきいきセミナー、福井ラジオ出演	2019年7月7日
6	高橋学	冷夏？	おはようパーソナリティ道上洋三です、ABCラジオ出演	2019年7月18日

7	中村大	企画展 美術考古	京都市下京区・ヴォイス・ギャラリー	2019年10月4日- 2019年10月13日
8	高橋学	インサイドOUT	テレビ出演, BS11	2019年10月21日
9	森下直紀	『阿賀に生きる』上映&トークイベント	東京都町田市・和光大学	2019年10月24日
10	高橋学	おはようパーソナリティー道上洋三です	ラジオ出演, 朝日放送ラジオ	2019年10月24日
11	森下直紀	シンポジウム「石牟礼道子の文学世界と水俣病」のモデレーターおよび司会	東京都町田市・和光大学	2019年10月27日
12	高橋学	おはようパーソナリティー道上洋三です	ラジオ出演, 朝日放送ラジオ	2019年12月9日
13	小川さやか	「LOHAS TALK」ゲスト出演	FMラジオ局J-WAVE	2019年12月16日- 2019年12月19日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	川村貞夫	双葉電子記念財団	衛藤細矢記念賞	システムインテグレーション科学を目指したロボティクス研究	2019年8月20日
2	古川勇気	現代文化人類学会	第3回早稲田文化人類学会奨励賞	「ペルー北部山地のチーズ技術供与における開発支援者の期待と農民の実践」	2020年1月25日

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	富田敬大	社会主義モンゴルにおける人間-環境関係の変容に関する研究	科学研究費補助金 [基盤研究C (一般)] (日本学術振興会)	2019年4月	2022年3月	代表
2	中村大	東北部の縄文時代人口の推計および人口変動と祭祀や墓制の変化との関連性分析	科学研究費補助金 [基盤研究C (一般)] (日本学術振興会)	2019年4月	2023年3月	代表
3	近藤宏	南米コロンビアの都市避難先住民から見る「多文化主義」をめぐる人類学的研究	科学研究費補助金 [若手研究] (日本学術振興会)	2019年4月	2023年3月	代表
4	佐久間香子	「食」をとおした共在の様式に関する基礎的研究—東南アジア産の中華食材に注目して	科学研究費補助金 [若手研究] (日本学術振興会)	2019年4月	2022年3月	代表
5	古川勇気	ペルーにおける水の公共サービス化・環境開発・水質汚染に関する文化人類学的研究	科学研究費補助金 [研究活動スタート支援] (日本学術振興会)	2019年8月	2021年3月	代表
6	アルベルトウス＝トーマス・モリ	インドネシアにおける華人キリスト者の人類学的研究: 「中華性」と対峙する日常	科学研究費補助金 [研究活動スタート支援] (日本学術振興会)	2019年8月	2021年3月	代表
7	丸山敦, 神松幸弘	古書籍に混入した毛髪のアナトミカル分析による過去の食生活の推定	科学研究費補助金 [挑戦的萌芽] (日本学術振興会)	2019年6月	2021年3月	分担

8. 競争的資金等 (科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	中川毅	微化石濃集法による堆積物の堆積年代の高精度化に関する共同研究	共同研究 電力中央研究所	2019年4月	2020年3月	代表
2	矢野健一	南太平洋島嶼地域におけるタバコ(樹皮布)の未公表コレクションの調査およびタバコ素材植物の樹種と系譜の研究	琉球大学島嶼地域科学研究所 公募型共同研究	2019年7月	2020年3月	代表
3	中村大	北海道南部・中央部における縄文時代から擦文時代までの地域別人口変動の推定	函館市縄文文化特別研究 (一般財団法人道南歴史文化振興財団)	2019年10月	2020年3月	代表
4	中川毅	水月湖の年縞に含まれる化石花粉の同位体比分析: 「人間に直結した」気候変動の復元	住友財団 2019年度 環境研究助成	2019年11月	2021年10月	代表

